



# すまいるだより

vol 9

【子育ての相談】  
子育て世代包括支援センター  
「えがお」（健康福祉課内）  
電話 0241(62)6170  
メール egao@nainaiizu.org

**近**ごろ、テレビの特集番組やアニメなどで「発達障がい」が報道され、言葉そのものを聞いたりする機会が多くなりました。有名人がご自身も当事者であると公表し、ニュースになることもあります。

**私**たちはような子どもも支援された方の多くが立派に働いていること、研究や発明で世界を変えてきたのは「発達障がいの特性を持つ人たちだ」と知っているのです、今の「発達障がい」への注目が、単なるブームや誰かを責める言葉として使われないうことを願っています。

**そ**の特性を周囲に理解され、安定した状態で成長していくことで、大きな問題に発展しないことが明らかな「発達障がい」。

**今**回は、発達障がいと特別ではなく身近であり、親のしつけや本人の努力不足ではないことをお伝えします。

**発**達障がいとは、個々の発達歩みの中で、生活に困難を来す場合に名付けられるものです。そして、理解が難しい理由のひとつに「ふつうと発達障がいの間に明確な境界線がない」という一面があります。

**と**いうのも、一般的に子ども（大人も同様）は人見知り・積極的・せっかち・マイペースといったように、それぞれに性格や行動が異なり、この違いを一般的に「個性」といいます。個性そのものが良い・悪いではなく、同じ個性の子どもはいないので、家庭では家族が、保育所や幼稚園、学校では先生が一人一人の個性を理解し、その子どもに合う接し方を工夫しながら寄り添っています。

**発**達障がいの特性は、この個性という視点から見ると「個性がひととき大きい状態」と言われています。個性がひととき大きく、簡単には分かり合えない部分があるために、細やかな工夫や支援を必要とする個性的な特性を医学的にグループ分けし、できるだけ分かりやすい状態で説明しているのが「発達障がい」という診断名です。

「個性の延長上に発達障がいの特性がある」と言われても、一般的には非常に分かりづらいものです。

**で**は、発達障がいの特性にどのようなものがあるのでしょうか。

**実**は、発達障がいの特性を持つ子どもは、ほかの子どもと同じようにできない面ばかり注目されやすく、「みんなを困らせる子」というレッテルを張られがちです。それは、特性の多くが集団活動の中で目立つものが多く、例えば「落ち着きがない」「一人遊びばかり」「友だちを叩く」「名前を呼んでもなかなか振り向かない」「言葉が遅い」「変化が苦手」「空気が読めない」「字を書くことが

**こ**こで誤解したくないのは、発達障がいがあることが「劣っていることではない」ということです。発達障がいの特性を持つ子どもは、他の子どもと同じようにできることもたくさんあり、他の子どもと比べてよくできる力も持っています。

**で**すから、他人と比べて劣っているのではなく、見たり、聞いたり、触ったり、味わったりするときの受け止め方や感じ方が個性的であるために、得意と苦手の差がはっきりしてしまっただけなのです。

**大**勢の人が何気なくやることにつまづいたり、気づけなかったことに気づいたりできる、これが極端になるほど日常生活がづらい場所となり、本

人は苦しさを抱えていることになりま。

**そ**のため、そういった状態を周囲が理解し、「相手を困らせてしまう子ども」は「もしかしたら困っている子ども」なのかもしれない・・・という気づきを得るために「発達障がい」という言葉が定着してきていると思われま。

**発**達障がいとは、誰かを差別する言葉でも悲しい言葉でもありません。私たちも、その考え方が広く正しく理解されていくことが大切だと考えています。そして、発達障がいについて詳しく知りたい方は、お気軽に子育て世代包括支援センター「えがお」に連絡ください。

**こ**こではお伝えできなかった、素敵で魅力的な一面もお伝えできると思っています。



【参考図書】  
「発達障害の子どもの心と行動がわかる本」  
田中 康夫（著）/監修